

秋田市教育委員会
平成28年8月定例会
(資料)

【目次】

協議事項

- (3) 御所野学院の今後のあり方について … 1

御所野学院の今後のあり方について — 「併設型」から「連携型」へ —

1 連携型への移行について

(1) 併設型中高一貫校としての御所野学院における課題

平成27年6月～10月に開催した、御所野学院検討委員会においては、現行の併設型のままでは、以下の課題の改善は困難であるとの答申が示されました。

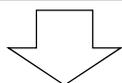
(課題)

- ・中高一貫教育校としての入学者数や学院高等学校への進学者数の減少傾向が続いている
- ・御所野地区住民の地元中学校の設置を要望する根強い声がある

(2) 「併設型」から「連携型」へ

平成27年12月から取り組んでいる検討プロジェクトにおいては、次の3点を課題の改善に向けたポイントとして協議を進め、「併設型」から「連携型」へ移行する案をまとめました。

- 開校以来実施してきた表現科や郷土学、中高合同活動、国際教養大学との連携による英語教育など、中高6年間をとおしたカリキュラムは、学院ならではの特色ある取組であり、これまで本市教育の充実に寄与してきた価値ある教育プログラムであることから、今後も継続すべきである。
- 中高一貫校への進学を希望しない児童の、御野場中学校への通学の負担等が課題となっていることから、御所野地区を学区とする中学校を設置すべきである。
- 高校入学段階で生徒を募集することにより、高校の定員を確保することができる新たな制度を検討すべきである。



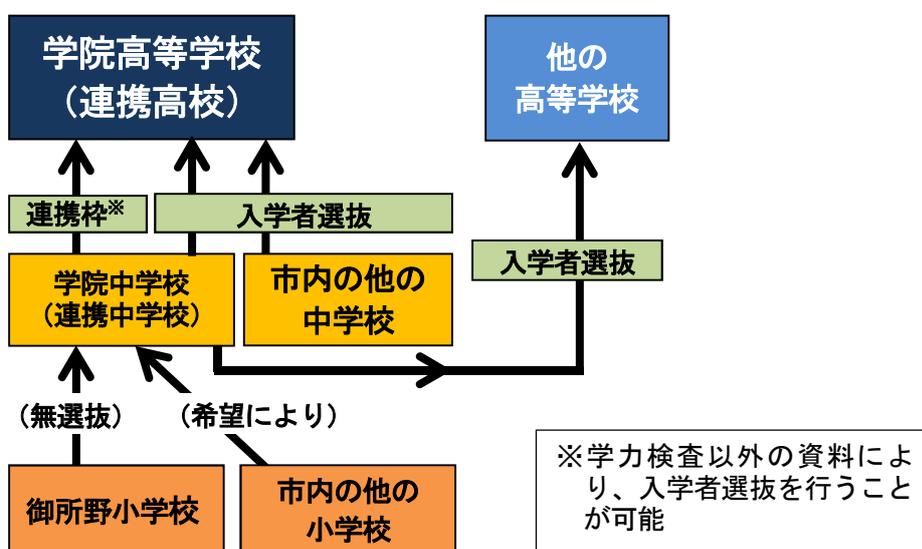
御所野学院における特色ある中高一貫教育プログラムを継続するとともに、御所野地区を学区とする中学校の設置と、入試により高等学校の定員を確保することが可能な「連携型中高一貫校」への移行をめざす。

- 連携型への移行について、本年4月下旬から5月上旬にかけて御所野学院や御所野小学校の保護者、地域住民など、学院関係者への説明会を開催するとともに、アンケートを実施し、約75%の賛成意見をいただきました。
- 教育委員会では、アンケート結果も踏まえ、御所野学院を併設型から連携型中高一貫校へ移行することとし、制度面についての検討を行いました。

2 御所野学院における連携型中高一貫校

連携型中高一貫校は、中学校と高校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流などの連携を深める形で中高一貫教育を実施する学校です。

(御所野学院における連携型中高一貫校のイメージ)



<御所野学院における連携型の特徴>

- 中高一貫教育プログラムを継続できる
 - ・御所野学院は中高が併設されているため、中高の連携を図った教育活動を円滑に進めることが可能であり、学院の教育プログラムを概ね継続できる。
- 地元中学校（連携中）が設置できる
 - ・御所野小児童は学院中学校に進学する。
 - ※希望により学区外からも入学者を受け入れる（特認校制度）
 - ・学院中学校（連携中学校）の生徒が、学院高校または他の高校へ進学する際は、入学者選抜（高校入試）を受ける。
 - ・学院中学校から学院高校への進学にあたっては、学力検査以外の資料によって入学者選抜（高校入試）を行う「連携枠」を設定する。
- 学院高校の定員の確保が期待できる
 - ・入学者選抜（高校入試）により、高校入学段階で生徒を受け入れることができる。

3 御所野学院における連携型中高一貫制度について

(1) 連携対象校

秋田市立御所野学院中学校、秋田市立御所野学院高等学校

(2) 学区

- ・連携型となる御所野学院中学校の学区は、御所野小学校区と同一とする。
- ・連携型への移行後も、中学校・高校の連携した特色ある教育プログラムを実施することから、御所野小学校区以外から入学者を受け入れる特認校制度を適用する。入学希望者が多数の場合は、公開抽選会により決定する。

(3) 新制度への移行時期

平成29年度4月入学の中学1年生から

※平成28年4月以前に入学している学年（現在の学院中、学院高校の全学年）については、高校卒業まで併設型中高一貫校としてのカリキュラムを保障します。

(4) 学院高校の入学者選抜（平成32年度入学者から）

①連携枠の設定について

- i) 実施方針 連携型中高一貫教育校であることを踏まえ、学力検査によらない選抜を行い、入学者を決定する。
- ii) 募集対象 御所野学院中学校3年生
- iii) 募集人数 連携枠による募集人数は、定員(80人)の3割以内とする。
- iv) 選抜方法
 - <日程> 県立高校の前期選抜の日程と併せて実施する。
 - <選考方法> 調査書、志願理由書、面接の評価に関する資料等により、総合的に行う。

②連携枠以外の入学者選抜について

- i) 実施方針 秋田市教育委員会内に「学院高校入学者選抜運営委員会（仮称）」を立ち上げ入学者選抜を実施する。
- ii) 募集対象 秋田市内の中学3年生
- iii) 募集人数 定員(80人)から連携枠により選抜された人数を除いた人数とする。
- iv) 選抜方法
 - <日程> 県立高校の一般選抜の日程と併せて実施する。
 - <選考方法> 調査書、学力検査の成績、面接の評価に関する資料等により総合的に行う。
 - <その他> ・連携枠で選抜されなかった生徒も志願することができる。
・定員に満たない場合は、2次募集を行う。

「御所野学院の今後のあり方（案）」に対するご意見

No.	ご意見の内容	意見に対する市の考え
1	<p>○連携型中高一貫校への移行について賛成（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御所野地区を学区とする中学校の設置により、御所野学院中の生徒が増え、これまで以上に部活動等の活気が期待される。 ・高校入試により、定員の確保に期待できる。 <p>○中学校における特認校制度を特に希望（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御所野学院の卒業生の中には、地元小学校になじめず地元中学校への入学をあきらめ、希望を持って学院中に入学し、高校卒業までの6年間を有意義に過ごし、学院にとっても感謝している親子が多くいる。同校の存在は非常に大きい。是非そのような子供たちの受け皿となれるように特認校制度を要望 <p>○連携枠以外の入学者選抜について賛成（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員に満たない場合の二次募集をすることで生徒数の確保に期待する。 ・志望校を不合格となった生徒に私立校以外の選択肢として必要 	<p>案に賛同いただけるご意見として承りました。</p>
2	<p>併設型から連携型に移行するのは賛成ではある。但し、併設型での入校目的は高校受験がないことも挙げられその部分への魅力は減るのである程度のフォローが必要と考えます。また、御所野地区で近くの御所野中学校への入学がスムーズになれば御野場中学校へ偏っていた生徒も分散していいかと思う。</p> <p>連携型に移行するメリットは御所野地区（御所野小学校）の生徒がほぼ御所野学院へ進学するのですが、果たしてうまく行くのかは不安が残る。何故なら学力、部活での成績も考えると御野場中学校が上との認識は南地区に在住の方は周知されている。これを払しょくするには相当の努力と年月が必要で最初はうまく行かないのでは。</p> <p>新制度への移行時期は異議はなしです。</p>	<p>いただいたご意見を参考に魅力ある学校づくりに努めてまいります。</p>

	<p>今後は是非御所野学院へ入学したいという魅力ある学校を作り上げるのに期待しております。</p>	
<p>3</p>	<p>学校関係者や地域関係者等の感情に訴える存続理由に異議がある。また、「価値ある教育プログラム」も存続理由として挙げられているが、これについても異議がある。</p> <p><郷土学>について</p> <p>①学院中に問い合わせたところ、以前存在していた中学3年時発行の400ページ以上にわたる郷土学研究の報告集を今は作っていないとのことであるが、なぜか？ また、それに替わる個々の学習内容評価はどのように行っているのか？</p> <p>②「郷土学」「表現科」はもともと独立した教科であったが、現在は二つまとめて一教科という回答を得た。なぜ変更したのか？ 特色あるプログラムの過当たりの時間を減らしたのか？</p> <p><表現科>について</p> <p>発表内容のレベルの差が著しく、ただのお祭り騒ぎに終始したものもあり、単位認定できるものとは言い難いケースも見受けられる。</p> <p>学院設立当初の高い目標設定に比べ、徐々に熱意の薄れ、中身の浅さ等が目立っていったように感じられるが、それに対する説得力のある説明を求めたい。</p> <p>連携枠の入学者選抜を学力検査によらないとしているが、どのような選抜方法を考えているのか。また、その選抜で高校入学者の質の保証ができるのか。</p> <p>市教委のあり方案を読んでも、今後の学院高校の姿が想像できない。楽観的な目標設定が後にゆがみを生み、その歪みによって苦しめられるのは生徒たちである。システムの矛盾の中で学院高校進学をあえてしなかった生徒が数多く存在する事実があるのに「地元の学校を残したい」との説得力に欠ける存続希望は将来の御所野在住の子</p>	<p><郷土学>について</p> <p>①「郷土学」については、学校の教育方針に基づき、学習内容や評価方法など、適切に行われているものと考えております。</p> <p>②「郷土学」については「総合的な学習の時間」として位置付けられております。また、「表現科」については、学院中学校においては「特に必要な教科」として、学院高校においては「学校設定教科」として位置付けられており、現在も、別個のものとして実施しております。</p> <p><表現科>について</p> <p>表現科については、個性の伸長を図り、コミュニケーション能力を高めることを目的に、様々な講座を設定し、学習内容を工夫しているところでありますが、活動内容や発表の仕方を含め、今後もさらなる充実に取り組んでまいります。</p> <p>学院は開校以来、教育目標「個性の伸長と愛郷心の高揚」の下、6年間を見通した特色ある教育活動に取り組んでまいりました。また、開校10年を契機として、さらなる充実を図るため、平成23年度有識者による検討を経て、入学者選抜における適性検査の導入や数学科・英語科の先取り学習の実施、国際教養大学と連携した英語教育の推進など、学院の中高一貫教育の充実に向けてまいりました。</p> <p>連携枠の入学者選抜については、面接試験や調査書による審査などが考えられますが、詳細については今後検討してまいります。</p> <p>いただいたご意見につきましては、学院の中高一貫教育充実のための参考にさせていただきます。</p>

	供たちのためにも容認するわけにはいかない。	いただきます。
4	<p>連携型の問題点：連携卒希望者と学院受験希望者と他の高校受験希望者が混在する状況は複雑な上、生徒のモチベーション維持にかなり問題がある。しかもこのスタイルでは、学力上位層が市内の進学校等に流出し、中位層から下位層が学院高校に進学するという現在の構図とほとんど変わらず、欠員を他の中学から選抜してもただの人数合わせで学院高校のレベルアップにはならない。</p> <p>教育プログラム：御所野小学校の子供を持つ親の多くは、地元公立中学校としての御所野学院中学の存在意義と必要性は認めているが、みんなが中高一貫プログラムを望んでいるわけではない。むしろこれまでの中高一貫プログラムは学校や設置母体側の自己満足であり、これまで外部機関や第三者機関によるしっかりした検証や見直しがされておらず、生徒の立場でプログラム構築がされていない。</p> <p>結論：地元公立中学校としての御所野学院中学は必要と思うが、御所野学院高校は廃止すべき。秋田市立の高校として秋田商業や公立美術大学付属などのようにその学校の特徴や方向性がはっきり示されていればその存在意義は十分わかるが、この計画では秋田市内の厳しい高校受験を回避するための中高一貫校となってしまう。そもそも中高一貫プログラムが本当に有効なものか要検証。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、学院の中高一貫教育充実のための参考にさせていただきます。</p>
5	<p>学院高校の入学者選抜が平成 32 年度入学者からとなっているのを 31 年度入学者から、つまり現在の中学 1 年生から実施してほしい。新体操を習っている娘が、学院高校への進学を強く希望していました。学院中への入試のために面接練習や受験勉強を進めていた矢先に、御所野学院高校の閉校という答申を聞き、先行きが不透明であることから受験を諦めました。そういったお子さんは少なからずいるものと考えられます。31 年度入学者からの入学者選抜を強く希望します。</p>	<p>現在、学院中学校に在籍している生徒さんは、高校段階で他からの入学を認めない現行制度のもとで入学していることから、平成 31 年度入学者選抜を実施することは考えておりません。何卒ご理解くださいますようお願いいたします。</p>

6	<p>学区外から中学へ入学させていただきましたが、高校（他の学校）受験も今まで通り選択ありでお願いしたいと思います。</p> <p>入学する前に、高校に残る生徒さんは少なく刺激が少なく小さな世界になってしまうので、皆さん受験するとは聞いておりましたが、うちは逆に学区外から受験していくのでよいのかしら？と安易に考えておりました。</p> <p>その時、その時の学校体制により、色々な選択ができるようにしていただけるとありがたいです。</p>	<p>現在、学院中学校に在籍している生徒さんが進路変更を希望する場合は、これまでどおりの対応となります。</p>